

平成29年12月27日
高校教育課

別紙2

県立高等学校再編整備 丹南地区実施計画(案)

平成29年 12月 日

福井県教育委員会

は じ め に

県教育委員会では、平成19年12月に、福井県高等学校教育問題協議会に対して「今後の県立高等学校の目指すべき方向性」について諮問し、約10か月にわたる審議を経て、平成20年10月に同協議会から答申を受けました。

答申においては、生徒たちにとって魅力ある県立高校づくりを進める観点から、社会や生徒のニーズに対応した職業系専門学科の在り方、地域の実情に応じた望ましい学校の規模および配置などについて、様々な提言がなされました。

県教育委員会では、この答申の趣旨を踏まえ、平成21年3月に「県立高等学校再編整備計画」を策定し、県立高校の再編整備について基本的な方針を定めるとともに、「県立高等学校再編整備 第1次実施計画」として、奥越地区の県立高校の再編整備をとりまとめました。

この計画に基づき、平成23年4月には、奥越地区において、本県初の総合産業高校となる「奥越明成高校」が開校しました。

平成24年3月には、「県立高等学校再編整備 第2次実施計画」を策定し、坂井地区、若狭地区の県立高校の再編整備をとりまとめました。

この計画に基づき、平成25年4月には、若狭地区において、小浜水産高校を若狭高校に統合するとともに、若狭東高校を総合産業高校とし、平成26年4月には、坂井地区において、総合産業高校の「坂井高校」が開校し、再編整備を進めてまいりました。

このたび、本県高校教育の更なる充実を図るため、「丹南地区県立高等学校再編整備実施計画」を策定しました。

計画の策定に当たっては、地区懇談会において、地域の産業界、教育に関する有識者、PTA・同窓会関係、教育関係者などの方々と意見交換を行い、丹南地区の県立高校の魅力づくりや地域産業を支える人材育成等の課題について検討を進めてまいりました。

本計画は、丹南地区の最もふさわしい高校教育の在り方とその実現に向けての具体的な方向性を示しております。教育委員会では、これからの高校生が、より良い高校教育を受けることができるよう、教育環境の充実を第一に再編整備を実施してまいりますので、広く県民の皆様のご理解とご協力をお願いいたします。

平成29年12月 日

福井県教育委員会

目 次

I 本県高校教育を取り巻く現状

1 中学校卒業者数の減少	1
2 職業系専門学科の在り方	1
3 再編整備実施計画の推進	2

II 県立高等学校再編整備 丹南地区実施計画

1 計画の趣旨	3
2 計画の内容	
(1) 課題と対応	3
(2) 丹南地区における再編整備方針	5
(3) 再編整備の進め方	9
(4) 今後のスケジュール	10

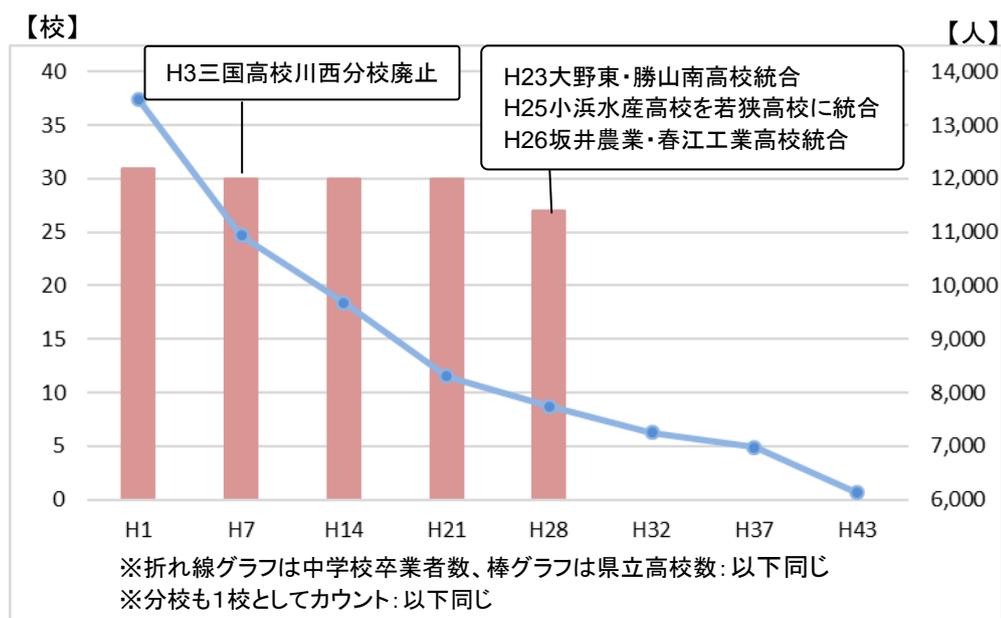
I 本県高校教育を取り巻く現状

1 中学校卒業者数の減少

本県の中学校卒業者数は、平成元年3月の13,483人をピークとして減少を続け、平成28年に生まれた子どもたちが高校に入学する平成43年には6,122人となり、ピーク時の半数以下に減少することが見込まれている。

平成20年10月の福井県高等学校教育問題協議会答申の趣旨を踏まえ、平成21年3月に策定した「県立高等学校再編整備計画（以下、「再編整備計画」という。）」においては、県立高校の適正規模を1学年4学級～8学級としており、全ての県立高校において、適正規模を確保し、生徒が互いに切磋琢磨しながら成長できる環境を整える必要がある。

【県内中学校卒業者数と県立高校(全日制)数の推移(見込み含む)】



2 職業系専門学科の在り方

職業系専門学科においては、各専門分野の基礎的な知識・技能の習得、将来の社会人として望ましい勤労観・職業観の育成に加え、現代の社会や生徒の多様なニーズを的確にとらえた教育体制の整備が求められている。

また、科学技術の進展や産業構造の変化に伴い、社会が求める知識・技能は日進月歩しており、こうした流れに的確に対応するため、より高度で実践的な専門教育が必要となってきた。

さらに、地元の産業を担い、地域に根ざして活躍する人材の育成を図るため、県内各地区の特色を生かした教育を推進することが重要である。

このため、再編整備計画においては、

- ① 複数の異なる専門学科を持つ総合産業高校の設置
- ② ひとつの専門分野に特化した拠点校の設置
- ③ 本県の特色を生かした新しい学科の設置

を中心とした職業系専門学科の再編整備を進めることとしている。

3 再編整備実施計画の推進

(1) 第1次実施計画

第1次実施計画として、県内で最も生徒数の減少が著しい奥越地区の全日制高校の再編整備を行うこととし、平成23年4月に、大野東高校と勝山南高校を再編統合し、大野東高校を校地として、総合産業高校の「奥越明成高等学校」を開校した。

現在、奥越明成高校では、観光授業や地域活性化の取り組みも行っており、全国高校観光選手権大会で優秀な成績をあげるとともに、リゾート産業など就職先の幅も広がっている。また、全国高校生食育王選手権大会や生花の全国高校生大会などでも成果をあげている。

(2) 第2次実施計画

第2次実施計画として、奥越地区に次いで、減少傾向が大きい坂井地区・若狭地区の全日制高校の再編整備を行うこととし、平成25年4月に、若狭地区において、小浜水産高校を若狭高校に統合し、新たに「海洋科学科」を設置し、若狭東高校農業科、工業科と若狭高校商業科を統合再編し、若狭東高校を母体とした総合産業高校を設置した。

また、平成26年4月に、坂井地区において、坂井農業高校、春江工業高校、金津高校商業科、三国高校家庭科を統合再編し、坂井農業高校を校地として、総合産業高校の「坂井高等学校」を開校した。

現在、坂井高校では、年間を通して週1回、企業等での実習を行うデュアルシステムを導入し、企業等と連携した人材育成を行っており、離職率の低下などに繋がっている。また、全国高校野球選手権大会に出場するなど部活動でも成果をあげている。

若狭高校では、スーパー・サイエンス・ハイスクールなどを活用した人材の育成や県立大学海洋生物資源学部との連携による課題研究などを行い、海洋科学科において県立大学進学の実績もあげている。

若狭東高校では、スーパー・プロフェッショナル・ハイスクールの認定を契機に、農業、商業、工業の各学科の生徒が融合して、地元企業や自治体と連携した植物栽培や研究開発を行っており、薬草などの商品化へ繋がっている。

II 県立高等学校再編整備 丹南地区実施計画

1 計画の趣旨

この計画では、丹南地区（鯖江市、越前市、池田町、南越前町、越前町）における全日制県立高校の再編整備の方向性について定める。

2 計画の内容

(1) 課題と対応

丹南地区の県立高校においては、以下の課題が存在しており、再編整備に当たっては、こうした課題に的確に対応し、県立高校の教育環境の充実を図ることを第一に進めていく。

丹南地区の課題

- ① 今後の高校入学者数の減少を見通した適正な学校配置と規模の確保
- ② 地域産業や生徒のニーズに的確に対応した職業教育の推進
- ③ 地域の期待にこたえる普通科系高校の魅力づくり

【参 考】

・ 中学校卒業生数の推移（見込み含む）※減少率は、対H元年比

年	丹南地区	
	卒業生数(人)	減少率(%)
H 1	3, 3 3 9	—
H 2 8	1, 8 9 4	▲4 3. 3
H 3 2	1, 7 7 1	▲4 7. 0
H 3 7	1, 6 6 4	▲5 0. 2

・ 平成28年度の学級数、募集定員、入学者数（単位：人）

No.	学校名	大学科	学級数	募集定員	入学者数
1	鯖江	普通	5	175	179
2	丹生	普通	5	140	139
3	丹南	総合	4	134	129
4	武生	普通	8	288	288
		理数	1	36	36
		池田分校	1	25	17

No.	学校名	大学科	学級数	募集定員	入学者数
5	武生東	普通	4	128	128
		国際	2	60	58
6	武生工業	電気	1	33	33
		都市・建築	1	33	33
		工業化学	1	33	33
		電子機械	1	33	33
7	武生商業	商業	2	70	70
		情報処理	1	35	35
		情報ビジネス	1	35	35

・工業科・商業科卒業生の就職状況（単位：人）

学校名	卒業年	業 種						
		建設	製造	通信	卸小売	金融 保険	サー ビス	その他
武生工業高校 【工業科】	H26	25	64	0	7	0	7	3
	H27	27	60	0	4	0	6	6
	H28	8	79	0	0	0	8	4
武生商業高校 【商業科】	H26	1	58	5	9	2	3	2
	H27	0	56	1	16	2	5	3
	H28	1	38	0	6	0	2	6

・普通科系学科と職業系専門学科の定員割合（平成29年度募集定員）

地 区		学科別定員割合(%)		
		普通	職業	総合
嶺北	福井	64.6 (72.3)	35.4 (27.7)	—
	坂井	67.2	32.8	
	奥 越	64.2	35.8	—
	丹 南	68.0	21.5	10.5
	嶺北	66.1 (70.2)	30.9 (27.7)	3.0 (2.1)
嶺南	二 州	55.4 (68.5)	44.6 (31.5)	—
	若 狭	62.3	37.7	—
	嶺南	58.6 (66.2)	41.4 (33.8)	—
合 計		64.6 (69.4)	33.0 (28.8)	2.4 (1.8)

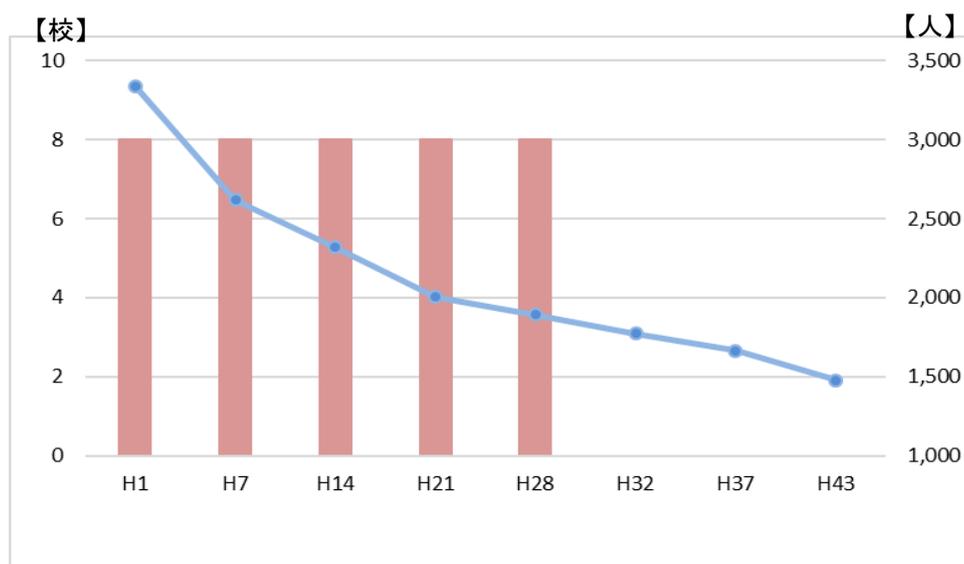
※()は、地区内の私立高校の定員を含めた数字。

(2) 丹南地区における再編整備方針

◆ 現状と課題

平成元年3月における中学校卒業生数は3,339人であったが、平成28年には1,894人まで減少(約43%減)した。また、平成43年には、1,476人まで減少(約56%減)する見込みとなっている。

【丹南地区の中学校卒業生数と県立高校(全日制)数の推移(見込み含む)】



全日制の県立高校は8校設置(うち1校は分校)されており、分校を除いた学校規模(平成28年度の1年次:以下同じ)をみると、1学年9学級規模が1校(武生高校)、6学級規模が1校(武生東高校)、5学級規模が2校(鯖江高校、丹生高校)、4学級規模が3校(丹南高校、武生商業高校、武生工業高校)となっている。

生徒数については、平成32年頃に減少傾向が大きくなり、平成37年頃にさらに大きく減少することが予想されることから、高校の適正規模の確保を図る必要がある。また、福井地区の高校等への進学者が多くなっており、地区内の県立高校のさらなる魅力づくりを図るとともに、製造業が盛んな地域であり、地域の様々な企業から人材育成への期待が高いため、職業科の定員を確保する必要がある。

【丹南地区の中学校卒業生の主な進学地(H28.3卒)】(単位:人)

丹南地区	地区外等(683人)		
	福井地区		その他
	県立	私立	
1,211	169	330	184

◆ 再編整備方針

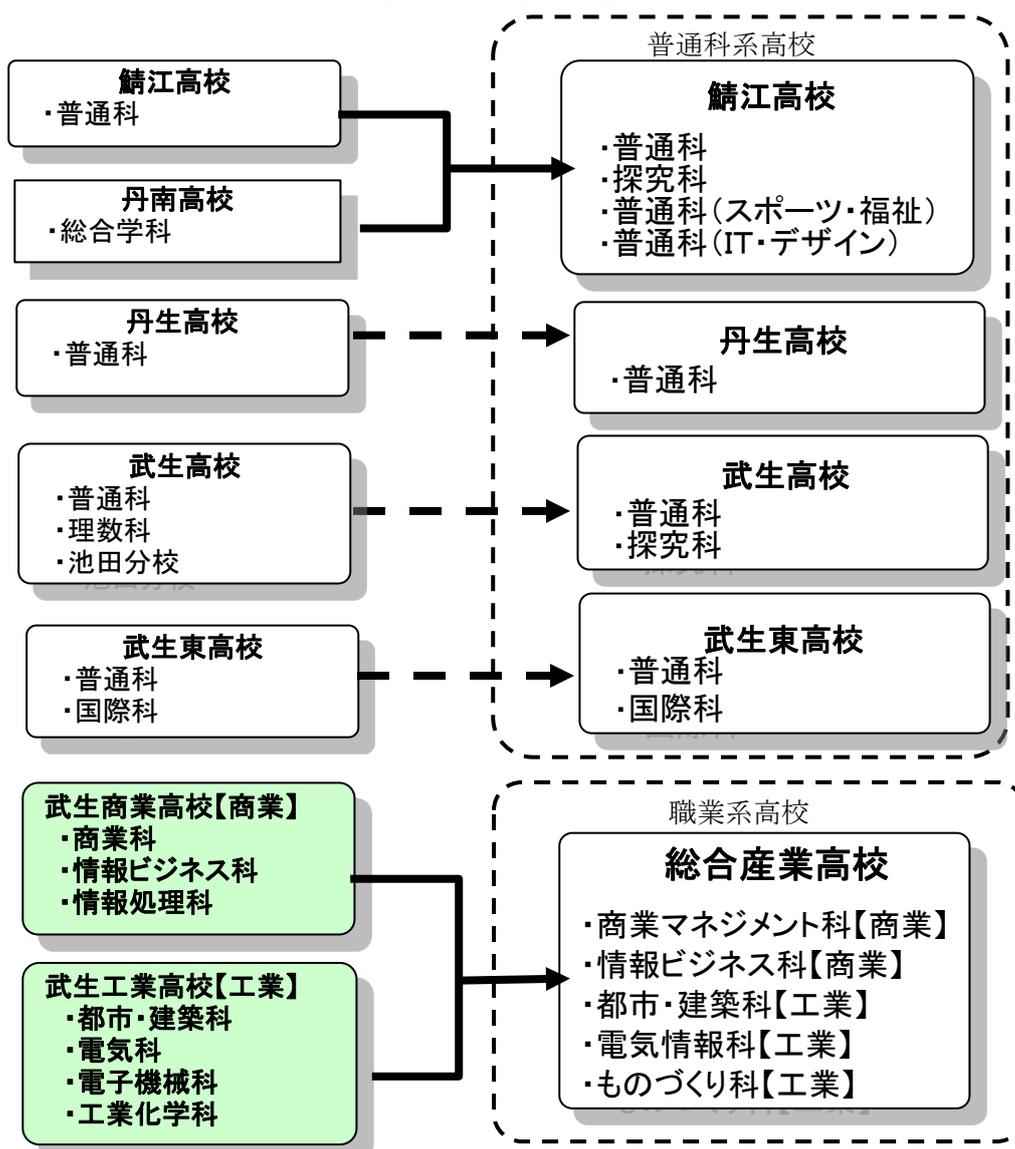
- ・ 丹南高校を鯖江高校に統合し、普通科にスポーツ・福祉コース、IT・デザインコースを置くなど、鯖江高校の魅力化をはかる。統合の時期は、平成32年度を目途とする。

鯖江高校の普通科に設置するコースの実習は、当面、丹南高校の福祉やデザインの実習棟施設を活用し、将来的に、鯖江高校校地での1キャンパスへの移行を検討する。丹南高校のその他の校舎・敷地等については、有効な利活用の在り方やそのために必要な施設・設備の整備を検討する。

- ・ 武生商業高校と武生工業高校を統合し、総合産業高校を設置する。

平成32年度を目途に開校し、当面は両方のキャンパスを活用し、必要な施設・設備の整備に要する期間等を見据え、平成37年度を目途に1キャンパスへ移行する。校地については、準備委員会において、今後検討する。

＜丹南地区における再編整備のイメージ＞



※鯖江、武生、総合産業高校の新学科名、コース名は仮称

◆ 普通科系高校の特色

- ・ 鯖江高校については、進学体制を強化するため、探究科（仮称）を設置し、国公立大学等の進学指導を強化する。また、丹南高校の特色である福祉、デザインや、地域で力を入れているIT、スポーツに関するコースを普通科に設置し、それぞれの分野の大学・専門学校の進学や就職に対応する。さらに、学校規模を拡大することにより、部活動や学校行事などを充実し、学校の魅力を高める。
- ・ 丹生高校については、連携型中高一貫教育の利点をさらにいかすよう、地元中学校との連携を強化し、大学進学等に対応できる学力の育成や部活動を充実する。
- ・ 武生高校については、探究科（仮称）を設置し、難関大学への進学を強化する。
- ・ 武生東高校については、国際科をいかした学校の魅力を高めるため、英検準1級全員合格を目指すなど、資格取得を強化し、海外留学の機会も確保する。

◆ 総合産業高校の特色

- ・ 商業、工業の2つの専門学科を基本に、様々な産業に関する学習を行うことができる教育体制を整備する。また、学校規模を拡大することにより、部活動や学校行事などを充実し、学校の魅力を高める。
- ・ 地元の企業、事業者と連携した実践教育やそれぞれの分野における資格取得の推進など職業教育カリキュラムを充実し、地域の産業界のニーズに応えられる産業人材を育成する。
- ・ 商業に関する学科として「商業マネジメント科」（仮称）、「情報ビジネス科」（仮称）を設置し、簿記や会計、情報等の基礎的知識・技術の習得を図る。さらに、地域の産業・観光を幅広く学習し、地元企業と連携して市場調査や販売戦略を学習するなど地域とのかかわりを重視した専門的・実践的な商業教育を展開する。
- ・ 工業に関する学科として「都市・建築科」（仮称）、「電気情報科」（仮称）、「ものづくり科」（仮称）を設置し、建築、電気情報、機械等の基礎的知識・技術の習得を図る。さらに、地元企業と連携し、充実した機械設備も使用し、最先端の技術や自動制御の仕組みなど生産工程全体を管理するシステムを学習するなど専門的・実践的な工業教育を展開する。

- ・ 商業と工業の相互の実習と学習や共同での課題研究など、生徒の興味・関心に応じた多様な科目を提供し、生徒の幅広いニーズに対応する。
- ・ 「ものづくり科」(仮称)では、工業化学系科目の一部を選択科目として設置する。また、すべての学科で、ポルトガル語や英会話を選択科目として設置し、地域のニーズに対応する。

＜再編整備後の新体制の姿＞

【現行:平成28年度】総定員数:1,258名

【再編後:平成32年度】総定員(見込)数:1,176名

学校名	学科名	クラス数	人数	学科名	クラス数	人数	クラス増減	学校名
鯖江高校(175)	普通科	5	175	探究科	1	38	+2	鯖江高校(270)
	普通科			普通科	4	156		
	普通科(スポーツ・福祉)			普通科(IT・デザイン)	1	38		
普通科			普通科					
丹南高校(134)	人文科学	4	134	2つのコースは、丹南高校の施設を活用 ⇒将来的に1キャンパスへの移行を検討				
	自然科学							
	情報科学							
	生活福祉							
	アート							
	デザイン							
地域文化				-4				
丹生高校(140)	普通科	5	140	普通科	5	140		丹生高校(140)
武生高校(349)	普通科	8	288	普通科	6	228	-2	武生高校(300)
	理数科	1	36	探究科	2	72	+1	
	池田分校	1	25				-1	
武生東高校(188)	普通科	4	128	普通科	3	112	-1	武生東高校(178)
	国際科	2	60	国際科	2	66		
武生商業高校(140)	商業科	2	70	商業マネジメント科	2	74		総合産業高校(288)
	情報ビジネス科	1	35	情報ビジネス科	2	74	+1	
	情報処理科	1	35				-1	
武生工業高校(132)				統合し、2キャンパスで(8クラス) ⇒H37に1キャンパスに移行(7クラス)				
	都市・建築科	1	33	都市・建築科	1	35		
	電気科	1	33	電気情報科	1	35		
	電子機械科	1	33	ものづくり科	2	70	+1	
	工業化学科	1	33				-1	

- ※ 鯖江高校、武生高校、総合産業高校の学科名、コース名は全て仮称
- ※ 再編後の総定員(見込)数は、地区の中学校卒業見込数から推計した数
- ※ 学級数、定員数については仮の数字。生徒の志望動向等によって、変更する。

(3) 再編整備の進め方

- ・ 再編整備に当たっては、対象高校・学科の募集停止と同時に新高校・新学科等の募集を行う。なお、対象高校の在校生については、原則として、卒業まで入学した学校の校舎等において学習を行う。
- ・ 統合再編する高校においては、再編対象校の教員を中心とした準備委員会を設置し、地元産業界やPTA、有識者等からの意見をいただきながら、学科・コース・カリキュラムの具体的内容をはじめ、校名・校章等の決定、入学者選抜等の開校準備を進める。
- ・ 開校準備の進捗状況については、準備委員会のホームページへの掲載や説明会の開催等により、随時、中学校関係者や保護者等に周知を図る。
- ・ 再編対象校の施設・設備に関しては、カリキュラム等の内容や検討の進捗状況を踏まえ、計画的に整備するとともに、使用しなくなる施設等については、有効な利活用の方法等を検討する。

(4) 今後のスケジュール

【新体制移行までの主なスケジュール（予定）】

年度	鯖江高校(丹南高校)	総合産業高校
H30	準備委員会設置 ・新学科、新コース等のカリキュラム検討 ・校舎・施設の利用計画の検討 ・必要な施設・設備の整備の検討	準備委員会設置 ・新学科等のカリキュラム検討 ・校舎・施設の利用計画の検討 ・必要な施設・設備の整備の検討
H31	・施設・設備の整備 ・人員配置検討 ・県立学校設置条例改正 ・教育目標の設定 ・学校案内等の作成 ・生徒、保護者、学校関係者等への周知 ・生徒募集(推薦入学、一般入学者選抜)	・施設・設備の整備計画策定 ・人員配置検討 ・新高校の校名等の検討 ・県立学校設置条例改正 ・教育目標の設定 ・学校案内等の作成 ・生徒、保護者、学校関係者等への周知 ・生徒募集(推薦入学、一般入学者選抜)
H32 ～	・鯖江高校新学科、新コース生徒入学	・総合産業高校開校(2キャンパス)生徒入学 ・施設・設備の整備
H37		・1キャンパスへ移行

※ 施設・設備の整備は、カリキュラムの内容や検討の進捗状況を踏まえ、計画的に実施。

【再編整備による新体制移行までのスケジュール】

区分		31年度	32年度	33年度	34年度	35年度
鯖江高校	普通科					
	普通科 (スポーツ・福祉) (IT・デザイン)		コース設置 1年生 在籍	1,2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	
	探究科		探究科設置 1年生 在籍	1,2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	
丹南高校	総合 学科		2,3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
丹生高校	普通科					
武生高校	普通科					
	探究科		探究科設置 1年生 在籍	1,2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	
	理数科		2,3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
	池田 分校	3年生 在籍				
武生東 高校	普通科					
	国際科					
武生商業 高校	商業科		2,3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
武生工業 高校	工業科		2,3年生 在籍 【募集停止】	3年生 在籍		
総合産業高校			開校 1年生在籍 2キャンパス	1,2年生 在籍	1,2,3年生 在籍	37年度～ 1キャンパス